kaminorippo.org

付録5c：日常生活における安息日の原則の適用

このページは、第4の戒め「安息日」に関するシリーズの一部です：

1. 付録5a：安息日と教会に行く日の違い
2. 付録5b：安息日を現代において守る方法
3. 付録5c：日常生活における安息日の原則の適用（現在のページ）
4. 付録5d：安息日での食事 — 実践的な指針
5. 付録5e：安息日の交通手段
6. 付録5f：安息日におけるテクノロジーと娯楽
7. 付録5g：仕事と安息日 — 現実世界の課題への対処

原則から実践へ

前回の記事では、安息日の遵守の基礎—その聖性、休息、そして時間—を探りました。今回は、それらの原則を実生活に適用することに焦点を当てます。多くの信者にとっての課題は、安息日の戒めに同意することではなく、現代の家庭、職場、文化の中でどのようにそれを実行するかです。本記事では、その旅の始まりとして、安息日を守ることを可能にする二つの基本的な習慣、すなわち事前準備と行動前に立ち止まることを取り上げます。この二つの習慣が、聖書の原則と日常の実践をつなぐ橋となります。

準備の日

安息日を重荷ではなく喜びとして体験する最良の方法の一つは、前もって準備することです。聖書では第六日が「準備の日」（ルカ23:54）と呼ばれています。神の民は安息日のために倍の量を集め、すべてが準備されるように命じられていました（出エジプト記16:22-23）。ヘブライ語ではこの日を יום הַהֲכָנָה (yom ha’hachanah) 「準備の日」と呼びます。同じ原則は今日も当てはまります。事前に準備することで、安息日が始まった後に不要な仕事から自分自身と家庭を解放できるのです。

実践的な準備方法

この準備はシンプルかつ柔軟に、家庭のリズムに合わせて行えます。例えば、日没前に家を掃除する、あるいは主要な部屋だけでも整えることで、聖なる時間に家事を強いられることがなくなります。洗濯、支払い、用事を事前に済ませておきましょう。食事を計画し、安息日に慌てて料理しなくてもいいようにします。汚れた食器を安息日後まで置いておくための容器を用意するか、食洗機があれば空にしておき、食器を入れても運転しないようにするのもよいでしょう。一部の家庭では、安息日に台所の混乱を最小限にするために使い捨て食器を使うことを選ぶこともあります。目標は、可能な限り未完の用事を減らし、家庭内の全員に平和と休息の雰囲気を作り出して安息日を迎えることです。

必要性のルール

安息日を実生活に取り入れるための第二の実践的な習慣は、ここで必要性のルールと呼ぶものです。特に普段の安息日の習慣外の活動について迷ったときには、「これを今日しなければならないのか、それとも安息日後まで待てるか」と自問してください。ほとんどの場合、その仕事は待てると気づくでしょう。この一つの質問が、週の流れをゆるめ、日没前の準備を促し、聖なる時間を休息・聖性・神に近づくために保つ助けとなります。同時に、本当に待てない事柄もあることを忘れないでください—慈善の行為、緊急事態、家族の切実な必要などです。このルールを思慮深く用いることで、安息日を労働停止の命令として尊びつつ、それを重荷に変えないようにするのです。

必要性のルールの適用

必要性のルールはシンプルですがほとんどあらゆる状況で機能するため強力です。例えば安息日に手紙や荷物を受け取った場合、ほとんどの場合は聖なる時間が終わるまで開けずに置いておけます。家具の下に物を見つけても、危険でない限り待てます。床の汚れも、多くの場合は後回しにできます。電話やメッセージについても同じ質問で評価できます。「これは今日必要か？」緊急でない会話、予定、用事は別の時に延期でき、平日の心配事から心を解放し、神に集中する助けとなります。

このアプローチは本当の必要を無視することを意味しません。危険なこぼれ物の掃除、病気の子どもの世話、緊急事態への対応など、家庭の健康・安全・幸福を脅かす事態には適切に対応すべきです。しかし、立ち止まって自問する訓練を積むことで、本当に必要なことと単なる習慣的なことを分けることができるようになります。時間がたつにつれ、必要性のルールは安息日を「してよいこと・してはいけないこと」のリストから、思慮深い選択のリズムへと変え、休息と聖性の雰囲気を作り出します。

混在する家庭で安息日を生きる

多くの信者にとって最大の課題の一つは、安息日を理解することではなく、他の人が守っていない家庭の中でそれを守ることです。多くの読者は安息日を守っていない環境から来ており、家族の中で唯一安息日を守ろうとしている人かもしれません。このような状況では、配偶者、親、または他の大人が同じ確信を持たないとき、緊張や罪悪感、苛立ちを感じやすくなります。

第一の原則は、強制するのではなく模範で導くことです。安息日は贈り物でありしるしであって、武器ではありません。望まない配偶者や成人した子どもに安息日を強制しようとすると、恨みを生み、あなたの証しを損なう可能性があります。その代わりに、その喜びと平和を模範として示してください。家族が安息日の時間にあなたがより落ち着き、幸せで、集中しているのを見ると、その実践を尊重し、やがて参加するようになるかもしれません。

第二の原則は、思いやりです。可能な範囲で、あなたの安息日準備が家庭の他の人に余計な負担をかけないように調整しましょう。例えば、配偶者や家族が安息日のために食習慣を変えるよう圧力を感じないように、食事を計画することです。あなたが個人的に控えている活動を、親切かつ明確に説明しつつ、彼らの必要の一部を受け入れる柔軟性も持ちましょう。これは、安息日遵守を始めたばかりの時に特に役立ち、衝突を避ける助けとなります。

同時に、柔軟すぎたり迎合的になりすぎたりしないように注意してください。家庭内の平和を保つことは重要ですが、過剰な妥協は徐々に安息日を正しく守ることからあなたを遠ざけ、後で変えるのが難しい家庭のパターンを作ってしまう可能性があります。神の戒めを尊ぶことと家族に対して忍耐を示すことのバランスを目指しましょう。

最後に、他の家族の騒音、活動、スケジュールをコントロールできなくても、あなた自身の時間を聖別することはできます。電話を切り、仕事を脇に置き、態度を優しく忍耐強く保つことです。時間がたつにつれ、あなたの生活のリズムがどんな議論よりも雄弁に語り、安息日が制限ではなく喜びであることを示すでしょう。